

朝倉川育水フォーラムの理念と活動について

理事長・大谷忠興
特定非営利活動法人 朝倉川育水フォーラム

1. はじめに

平素は朝倉川育水フォーラムの活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。当法人は多くの市民の皆様のご協力のもと、平成7年の設立以来28年目の活動を迎えました。その間私たちは、「治水、利水、親水を経て、多様な植物や生き物を宿す水を育む為に、人や社会が出来る事を少しずつでも積み上げていく」という理念、そして、その理念に基づいた活動を大切にしてきました。そして、その理念を「育水」と名付け、その理念を形にする為の運動や活動を展開しています。勿論、その中にはそういった運動や活動が出来る「ひとづくり」も含まれています。ビジョンの共有と活動への共感を図る為、～ホテルのとびかう人里づくり～というターゲットも掲げておりますが、ゲンジボタルは健全な清流や里山にとっての分かりやすい指標生物です。ゲンジボタルを増やそうと思えば、その幼虫の餌となるカワニナを増やす必要があり、そのカワニナを増やそうと思えば川を綺麗にする必要があります。蛹室を造る為に上陸をしますが、その陸地環境も考える必要がありますし、繁殖のために空中に舞う空の環境も大切になってきます。そういった生態から、水、土、大気、我々が暮らしていく上においても、今後も大切にしていかなければならない要素を過分に含む指標生物として、シンボリックに取り上げています。そんなゲンジボタルを育みつつ生物多様性を図り、より良い自然と都市との共生を模索しながら進んでいますが、その摸索に基づく方法が現在の活動になっています。

2. 方法、結果及び考察

・朝倉川530大会

朝倉川流域の全域で行われる530活動で、1997年の設立当初から年1回の大会を継続的に行っています。現在では、累計参加人数58,000人を超え、地域で多くの方々にも積極的に参加していただける「運動」へと繋がっています。初年度の大会におけるゴミの総重量は約50tであったのに対して、近年では1t付近にまで減少している状況です。河川と海洋との関係を考えても、近年の海洋中のマイクロプラスチックに対する課題解決の一つとして大きな意義のある活動となります。



・「朝倉川へのメッセージ」の募集 ～朝倉川530大会の併設イベント～

この事業は、530運動の一環であり環境啓発活動のひとつとして、1999年の第3回朝倉川530大会に実施された「朝倉川530大会作文コンクール」に端を発し、様々な手法を経て実施されました。そして2006年の第10回開催のタイミングで、多くの皆さまが気軽に参加できる手法である「絵葉書」へと変更し、その後継続事業として開催しています。現在では、豊橋市内の小中学校を中心に総合学習のカリキュラムの一つとして取り組んでいただけるパートナーも増え、毎年約500作品に及ぶ応募があり、多くの皆様の朝倉川や環境への関心の高さを感じています。

・朝倉川植樹メンテナンス大会

1998年から5年にわたり愛知県の「水辺の緑の回廊」事業との協働で、朝倉川上流部、蟬川橋から寺門橋の間に44,000本の朝倉川流域で望ましいと考えられる河畔林を植樹しました。その後、社会環境と自然環境がうまく両立するような形を目指して、朝倉川を取り巻く人たちと理想の形を作っていく為に、河川管理者である行政、自治会、企業などで構成される「朝倉川植樹メンテナンス大会実行委員会」を中心に地域の自然環境、治水と生活とのバランスを考えながら植樹林のメンテナンス作業を実施しています。この植樹林の持つ力（街灯の遮断、防風、適度な日陰創出による水温上昇抑制）は、ゲンジボタルの増加スパイラルに大きく寄与しています。

・里山づくり・ビオトープの保全活動

1998年から豊橋市東部丘陵地帯の多米町滝ノ谷地区付近の国有林及び故加藤茂二氏より隣接地を無償で借り受け、ホテル再生のサンクチュアリとしてのビオトープ



づくりを開始しました。ゲンジボタルはもとより、ヒメタイコウチなどの希少生物種の再生の場面だけではなく、「絶滅危惧種 川ガキ」の再生に向けて、子どもたちの「体験の場」として役割の変化を遂げつつあります。多米の里山を楽しむ会とも協力し、豊橋市内の小中学校との協働による継続的な体験学習に加え、2020年からは、

コロナ禍ながら「とよはしプレーパーク」発足のサポートと協働活動を通じて、子どもたちのみならず、「親子での体験と感動」を通じて、「自由」を考え直し、人と人との繋がりにチカラを入れて活動の幅を広げています。

・朝倉川河川調査による水質及び指標生物のモニタリング

2002年より、朝倉川の水質および指標生物の生息状況のモニタリング調査を季節毎の年間4回、定点調査を以下の場所で行っています。①西郷橋上流部 ②豊橋競輪

場北側水上ステージ付近 ③公園橋下流部の内山川との合流点 ④滝ノ谷池ビオトープ、さらに、単なるモニタリング活動だけではなく、「朝倉川探検隊」と称して水質モニタリングや水生生物の捕り方の教室を実施していきながら「絶滅危惧種川ガキの再生」に関する活動や、調査結果に基づいた提言活動などを継続的に行っています。



・絶滅危惧種「川ガキ」の再生

2015年に作成した、「朝倉川流域ビジョン2015」でも提言した「子どもたちの体験を持続可能なチカラに・・・」をコンセプトに、様々な次世代の皆様と共に多様な体験型の事業を行っています。①「朝倉川探検隊」の実施 ②「朝倉川へのメッセージ」の募集 ③各種「環境出前授業」の実施 ④「とよはしプレーパーク」とのパートナーシップによる滝ノ谷池ビオトープでのプレーパーク事業の実施。

3. おわりにー今後の展望

一つ一つの事業精度を高めていきます。それには、更なる市民協働が必要であり、いかに市民の皆さまを巻き込み大きなチカラに変えていくかが鍵です。SNSなどの情報発信を通じて、ひとりでも多くの共感者を募っていきたいと思います。また、我々が大切にしている「育水」の理念を拡げる活動にも精力的に取り組めます。現在は山梨県、愛媛県西条市と「育水」の共同利用協定を締結、豊橋市とも協議中。※この理念を守る為に「育水」を商標登録しています。